資料４

ルート視察　実施報告

第24回 シーニックバイウェイ北海道推進協議会

令和8年3月25日

ルート視察の概要

Scenic Byway HOKKAIDO

①視察目的

ルート視察および意見交換を踏まえて、目指すべきルート目標の確認、ルート活動の改善、ルート運営体制の強化を目的とする。

（ルート運営活動の点検）
第二十一条 地域の活動団体等、代表者会議はルート運営活動計画に基づく活動を展開するとともに、社会情勢の変化等により地域がおかれている状況を勘案し、５年を目安に推進協議会及び有識者等によるルート視察、意見交換や自主的な点検・改善を行うものとする。
一 目指すべきルートの目標
二 ルートの活動状況
三 ルートの運営体制 等

「シーニックバイウェイ北海道実施要綱」より

②視察対象

釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ

宗谷シーニックバイウェイ

③視察対象・実施日

令和7年7月29日(火)・30日(水)

令和7年10月6日(月)・7日(火)

④視察者

シーニックバイウェイ北海道アドバイザー会議 委員
（石田東生委員長、岩井宏文委員、木村宏委員、高野伸栄委員、目黒沙弥委員）

シーニックバイウェイ北海道 アドバイザー会議 委員
（石田東生委員長、木村宏委員、高野伸栄委員、羽鳥剛史委員、山岸奈津子委員

視察経路（釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ）

Scenic Byway HOKKAIDO

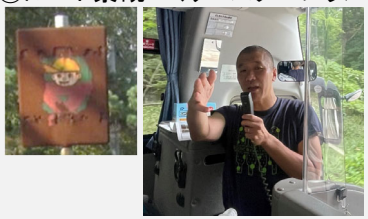
≪阿寒湖畔≫
⑧沿道清掃活動
※ぐるっと！スタンプラリー
（スタンプ）

≪永山在兼顕彰碑≫
⑩デジタルスタンプラリー
（ヒストリックバイウェイ）

≪秀逸な道～美幌峠～≫
⑳秀逸な道での景観改善の取り組み

≪屈斜路駐車帯≫
㉑こっちだようへい看板の改善

≪一般国道240号≫
⑦ルート景観づくりマスタープラン



≪中標津総合文化会館しるべっと≫
●意見交換会

≪シーニックカフェ カフェカイヨウダイと秀逸な道≫
㉒自動販売機での活動PR
⑮中標津情報掲示板
⑳秀逸な道での景観改善の取り組み
※ぐるっと！スタンプラリー（スタンプ）

≪道の駅「阿寒丹頂の里」≫
⑥予約制駐車スペース
（RV パークとの連携）

≪双岳台（永山峠）≫
⑨永山峠での活動

≪たんちょう釧路空港≫
①阿寒湖フォトコン写真展
②懐かシーニックパネル展
③くしろ・ねむろ ぐるっと！スタンプラリー
④ひがし北海道エンジョイマップ
⑤ようこそ釧路へ看板

≪そららの森≫
⑪そららの森での植樹活動

≪道の駅「摩周温泉」≫
⑫予約制駐車スペース
⑬臨時駐車場への誘導看板
⑭町道への誤進入調査
⑮てしかが情報掲示板
⑯より道トクするQR
⑰情報提供スペース（薩摩よりみちとの連携）
⑱水郷公園への誘導（かわたびとの連携）

意見交換会（釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ）

Scenic Byway HOKKAIDO

◆各委員からのコメント（一部抜粋）

●目黒委員

・道の駅を中心とした受入体制は非常に充実しており、パンのトースター設置やふるさと納税展示など、来訪者に地域への愛着や再訪意欲を抱かせる工夫が随所に見られた。
・一方で収益化の観点では課題もあり、公共施設としての公平性を保ちつつ、RVパークのプレミア区画設定や地域で使えるクーポン付与など、付加価値型の料金設定を導入することで地域経済への波及効果を高める可能性がある。また、固定利用者に偏った利用形態が定着しないよう、新規利用者とのバランスを意識した運営も重要である。

●高野委員

・道の駅での取り組みや道路敷地での清掃活動、景観診断、情報発信、スタンプラリーなど、多様な活動が展開されており、現場課題に迅速に対応できる運営体制が整っていることが印象的であった。
・特定分野に偏らず、地域全体で幅広い取り組みが積み重ねられている点は高く評価できる。
・今後は利用者の声を収集・反映する仕組みを整えることで、よりニーズに即した改善につなげるとともに、活動の認知向上を図ることが重要である。
・また、来訪者の中でもライダー層の存在感が大きく、今後の戦略において有力なターゲットとなり得る。
・観光産業における人手不足は深刻化しており、宿泊施設だけでサービスを完結させることが難しくなっている。今回の渡辺体験牧場での夕食提供のように、地域の施設が連携して観光体験を提供する仕組みは有効な事例であり、地域全体で観光サービスを支える体制づくりが求められる。

●岩井委員

・景観診断の取り組みが地域の景観管理や合意形成に大きく寄与しており、地域が一体となって積み重ねてきた努力の成果が随所に表れていた。
・また、空港到着時からの情報発信や案内の流れにも地域のホスピタリティが感じられ、地域団体が行政と民間の間をつなぐ役割を果たしている点が印象的であった。
・予約制駐車スペースの運営など先進的な取り組みも評価できるが、無料施設における長時間占拠などの課題に対しては、制度見直しや部分的な有料化を含めた戦略的対応が必要である。
・地域活性化に資する取り組みについては、資金調達も含め主体的に構想を実現していく姿勢が求められる。

●木村委員

・今回の視察を通じ、地域の取り組みに多くの学びと新たな発見があった。
・今後はICT化やデジタル化の進展、訪日外国人観光客の増加を見据えた対応が求められるとともに、地域活動を担う新たな人材の育成も重要な課題である。
・また、道の駅など観光拠点では、快適な滞在空間の整備や情報発信の充実により来訪者の満足度を高め、地域への愛着につなげていくことが期待される。
・さらに、車・自転車・徒歩など多様なモビリティが共存する観光の可能性や、環境保全と持続可能性の視点を踏まえた地域づくりも重要である。

●石田委員

・ルート関係者の熱意と丁寧な準備に深い感銘を受けた。
・7年前の訪問時と比べ、開陽台の整備や道の駅摩周温泉の予約制駐車スペースなど、着実な進展が見られた。
・景観診断は景観改善にとどまらず、住民同士の価値観共有や仲間意識の醸成にもつながっている点が印象的であった。
・また、ルートコーディネーターによるインタープリテーションのように、人の語りによる説明は強い印象を残すものであり、今後のビューポイント整備でも重視すべきである。
・さらに、開陽台の広域観光地図のように自治体を越えた視点での情報発信は重要であり、人口減少などの課題に対して地域全体で議論する場として、シーニックが提供していくことが重要。

視察経路（宗谷シーニックバイウェイ）

	行程概要	視察地
1	ホテル出発（HOTEL TRUNK）	
2	サロベツ湿原センター →館内展示見学・展望台まで木道散策	豊富町
3	豊富温泉 →ふれあいセンター見学・自然観察館でレクチャー	豊富町
4	開源パーキングシェルター →施設見学・稚内開建より解説	豊富町
5	メクマ旋回場 →施設見学・稚内開建より解説	稚内市
6	ペンション亜留芽利亜 →昼食（海鮮丼）	稚内市
7	宗谷岬・Bace Soya →見学・記念撮影、自転車レンタル	稚内市
8	白い道サイクリング（宗谷郵便局向かい着） →サイクリングゴール地点・アクティブバスに自転車積み込み	稚内市
9	北防波堤ドーム →施設見学・稚内開建、宗谷SBWより解説	稚内市
10	道の駅わっかない →施設見学・買い物	稚内市
11	ノシャップ岬 →サンセット見学・記念撮影	稚内市

意見交換会（宗谷シーニックバイウェイ）

Scenic Byway HOKKAIDO

◆各委員からのコメント（一部抜粋）

●山岸委員

・空路での到着時から海岸線や利尻島の眺望により旅への高揚感が高まり、到着前から満足度を高める演出の重要性を感じた。
・道の成り立ちや地域の歴史など背景情報を知ることで景観の味わいが深まり、旅の満足度が高まると実感。
・各ロードの名称は期待感を高める効果があるが、その意味や魅力を自然に伝える仕組みが必要である。
・また、媒体づくりでは地域の温度感を伝える表現や写真の活用が重要であり、「風」という地域特性も象徴的なテーマとして活用できる可能性がある。
・こうした情報を通じて、訪問者が地域の物語を感じながら旅を楽しめる環境づくりが望まれる。

●羽鳥委員

・初めての稚内訪問を通じ、白い道のサイクリングや丘陵・海の景観など独特の風景体験に強い感銘を受けた。
・宗谷では道を起点に地域活動や交流が生まれており、シーニックバイウェイの理念が実践されていると評価できる。
・一方で現地で感じる感動はパンフレットだけでは伝えきれないため、動画やSNSなど動的な発信の強化が必要である。
・また、若い世代の地域づくりへの参加や樺太との歴史的関係なども、地域の特徴として発信していく価値がある。
・こうした多面的な魅力を通じて、宗谷地域の独自性をより広く伝えていくことが期待される。

●木村委員

・従来の「最北端到達型」の観光だけでなく、滞在を通じて宗谷の多様な魅力を実感できた。
・地域が掲げる「あたたかい最北のみち」を体験としてどう演出するかが課題であり、13のロードを滞在型の観光ルートとして発展させる可能性がある。
・また、自転車や公共交通などを組み合わせたモビリティツーリズムやガイド人材の育成も重要。
・樺太との歴史や豊富温泉など地域資源を評価。DMOによる情報発信を強化することで「訪れる価値」を高めていく必要がある。
・これらの取り組みにより、宗谷ならではの滞在型観光の魅力がさらに高まると期待される。

●髙野委員

・宗谷シーニックバイウェイは地域リーダーの継続的な取り組みにより着実に発展しており、行政・企業・団体の連携の強さが特徴である。
・道に名称を付ける取り組みは独自性が高く、今後は各ルートの見どころや移動時間などの情報を整理することで利用者が巡りやすくなる。
・また、白い道については貝殻の白さだけでなく、海や空を含めた大パノラマの景観が本質的な魅力であり、その景観全体を伝える表現が重要である。特に自転車などで体感する景観の魅力を活かし、体験型の観光資源として磨き上げていくことが期待される。

●石田委員長

・宗谷DMOは地域の信頼と実績を背景に設立されており、今後さらに役割を発揮することが期待される。
・一方で北海道では高速道路の行き止まり区間が多く、災害時や広域移動の観点で課題がある。
・高速道路整備が難しい場合でも、フランスの事例のように一般道と高規格道路を一体的に考える発想が参考となり、道路ネットワークと地域づくりを合わせて考える視点が重要である。
・こうした視点から、シーニックバイウェイと広域道路政策の連携も今後の検討課題となる。